

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：12606

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12979

研究課題名（和文）ロシアにおけるオペラ上演の発展：私立歌劇場と地方との相関関係を中心に

研究課題名（英文）The Development of Opera Performances in Russia: Interrelations between Moscow Private Opera Theatre and Theatres in Local Areas

研究代表者

神竹 喜重子（KAMITAKE, Kieko）

東京藝術大学・大学院音楽研究科・研究員

研究者番号：70786087

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀末から20世紀初期のロシアにおいて革新的なオペラ上演を行っていた私立歌劇場を対象とした。オペラに携わる人の移動や作品の伝搬において、私立歌劇場と地方都市の歌劇場の「協力関係」が重要な役割を果たしていたのではないかと、この仮説に基づき、その実態を検証した。独自のオペラ文化及びオペラ上演活動を築いていた地方の歌劇場、オペラ関係者の移動を通じてそれに影響されたモスクワ市内の私立歌劇場（主に私立マーモントフ歌劇場）、さらにはそれに対する帝室の検閲の在り様を分析し、当時のロシア音楽界における都市と地方の力関係を問い直した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、19世紀末から20世紀初期のロシアにおける私立歌劇場の上演活動に関しては、ソ連時代のイデオロギー的制約によりその資料公開や研究が遅れてきた。本研究では、そうした同時期のロシアの私立歌劇場を一次資料に基づき調査することにより、当時のロシアの私立歌劇場における作品伝播や芸術的潮流の波及の様相、多様な地域におけるオペラ関係者の移動を介してのネットワークを明らかにした。またロシアにおけるオペラ上演史の変遷をめぐる議論に、音楽とそれを取りまく人・地域・社会との連関という視点をもたらすものである。

研究成果の概要（英文）：This research focused on innovative opera performances staged by private opera enterprises, especially the Moscow Private Opera directed by Savva Mamontov, analyzing the relationships between private operas in Moscow and those in the provincial area.

As a fruit of this research project propagation of opera performances through the movement of talented opera singers, stage designers and directors among those private operas was brought out. Besides, the power balance between Russia Imperial Theaters and private operas was reconsidered.

研究分野：ロシア音楽史

キーワード：ロシア 世紀末 古儀式派 帝室劇場 私立歌劇場 オペラ 地方 移動

1. 研究開始当初の背景

ロシアでは、1882年に帝室劇場がオペラ上演の独占権を手放した後、各地で私立歌劇場が急増した。従来の研究では、こうした私立歌劇場が帝室によって厳格に管理され、オペラ上演のレパートリーも帝室の意向を反映したものであったとされてきた。帝室主導によるオペラ文化の普及がいかなる帰結を迎えたのかを見れば、そのオペラ文化政策の限界を明らかにすることができるのではないかと考えた。このような視点から代表者は、19世紀末から20世紀初期のロシアにおける私立歌劇場に関する研究に従事してきた。私立歌劇場に関する研究では、モスクワの古儀式派による私立マーモントフ歌劇場が帝室から拒絶されていたリムスキー＝コルサコフやムソルグスキーのオペラを擁護し、かつ革新的なオペラ上演によって帝室劇場を凌駕していたことを見出した。同歌劇場は、リムスキー＝コルサコフやムソルグスキーのオペラをいち早く上演していたチフリシ（現トビリシ）、カザンなどの地方の私立歌劇場から多くの優秀な人材を集めることでオペラ上演を成功させていた。いふなればリムスキー＝コルサコフやムソルグスキーのオペラ作品は「地方」から「モスクワ」へと伝搬していたといえる。ここから、私立歌劇場が受けていた帝室の影響は限定的なものであったことが確認された。

さらにロシアの歌劇場の立地を見ると、古儀式派の私立歌劇場が多く創設されたモスクワと、帝室の本拠であるペテルブルクとの間でオペラ上演の傾向が大きく異なる他、モスクワ及び地方における私立歌劇場のオペラ上演が連動している。ここから、従来のロシア各地におけるオペラ文化の発展を考えるうえで中心概念となってきた「帝室による検閲」や「帝室の分配による資金立地」といったものを越える、地方都市の歌劇場に蓄積する独自のオペラ文化及びその実践経験が存在するのであり、それがオペラ作品の伝播に影響を及ぼしているのではないかと、という問いを立てた。

2. 研究の目的

これまでのロシア・オペラ研究は、「帝室主導によるオペラ上演」の発展という仮定に基づいてきた。しかし、上述のとおりオペラ文化の発展に際して大きな影響を与えてきたことが明らかとなった「地方独自のオペラ文化」という要因を看過することはできない。そこで本研究では、19世紀末から20世紀初期のロシアの主要都市における私立歌劇場のオペラ上演活動を調査し、モスクワやペテルブルクなどの主要都市と地方の私立歌劇場間における相関関係を、パワーバランスに注目しつつ明らかにすることを試みた。その上で、帝室劇場委員会の私立歌劇場に対する検閲の実態を考察した。

3. 研究の方法

本研究では、19世紀末から20世紀初期のモスクワにおいて、革新的なオペラ上演を行った古儀式派の私立歌劇場、それらとオペラ関係者の移動を介して独自のオペラ文化及びその実践経験を共有していた地方の私立歌劇場、さらにはこうした私立歌劇場のオペラ上演に対する帝室の検閲の実態を考察対象とした。まずはデータベースに基づき、古儀式派の私立マーモントフ歌劇場によるオペラ上演傾向を、帝室劇場や地方の私立歌劇場におけるそれと比較分析し、類似点や決定的差異を明らかにした。

次に、決定的差異に注目しながら同時期の私立歌劇場間におけるオペラ関係者の移動及びそれに伴うオペラ作品の伝播を取り上げ、地方の私立歌劇場による独自のオペラ文化及びその実践経験がいかに共有されていったのかを分析した。また、私立歌劇場の代表が帝室主導のオペラ上演政策に対していかなる見解を持っていたのか、その立ち位置について自伝や回想録、書簡などを精読した。

4. 研究成果

帝室劇場との決定的差異となっている因子が、ムソルグスキーのオペラ《ホヴァーンシチナ》であることが明らかになった。その上で、このオペラについては実のところ1892年にキーウ初演がなされていたことを見出し、アーカイヴ調査でこのキーウ初演に関する現地の受容状況を『キーウの言葉』紙などで整理した。また《ホヴァーンシチナ》をめぐるキーウ初演(1892)とモスクワ初演(1897)に関しオペラ関係者のデータを照合したところ、キーウ初演で中心的役割を担ったオペラ関係者が、その後私立マーモントフ歌劇場に移籍し、モスクワ初演にも携わっていたということが確認できた。

さらに、かつて帝室劇場でキャリアを積み、帝室劇場から離反したオペラ歌手たちが、キーウやトビリシなどの地方都市で自らの私立歌劇団を結成し、ムソルグスキーのオペラの普及に尽力していたこと、また彼らの指導下で育成された人材がその後地方の私立歌劇場をはじめとし、モスクワの私立マーモントフ歌劇場や私立ジミーン歌劇場で活躍し、最終的には帝室劇場の舞

台で活躍していたことに鑑み、オペラ関係者の移動の循環形態を指摘した。これまでロシア・オペラ界は首都>地方の構図で語られてきたが、必ずしもそうではなく、寧ろ地方の歌劇場がオペラ作品の普及に際して能動的な役割を果たしてきたと結論づけた。

また、私立マーモントフ歌劇場との間にオペラ関係者の往来があったキーウの私立プリアーニシニコフ歌劇場や私立セーフ歌劇場のオペラ団員に関して、彼らのキャリア(出身地、教育、所属歌劇場など)に重点を置いたデータベースを作成した。このほか、私立マーモントフ歌劇場に関する先行研究では、同歌劇場においてアンブロワーズ・トマの《ミニヨン》やレオ・ドリーブの《ラクメ》の上演が芳しくなかったとされてきたが、1890年代末のチケット収益を記録した一次資料を調査したところ、アメリカのマリー・ヴァン・ザント(1858-1919)という世界的なオペラ歌手がこれらのオペラにゲスト出演し、チケット収益及び集客ともに倍増していたことが判明した。バレエ界のイサドラ・ダンカンと同じく、彼女もまた外国人歌手としてロシアのオペラ文化界にフランスのオペラ・コミックの潮流をもたらしたことがわかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 神竹喜重子	4. 巻 12月号
2. 論文標題 作品解説 色とりどりのピアノ独奏曲	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 モーストリー・クラシック1	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神竹喜重子	4. 巻 12月号
2. 論文標題 移住者ラフマニノフ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 モーストリー・クラシック	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 5件／うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Kieko Kamitake
2. 発表標題 Leo Sirota's Contributions to the Development of Japanese Classical Music: Performances, Education and Relationships with Japanese Music Circles
3. 学会等名 Music and Exile in a Global Perspective. A symposium in Reykjav. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kieko Kamitake
2. 発表標題 The Acceptance of Bulgarian Voices in Japanese Music: Kenji Kawai's Music for Science Fiction Film
3. 学会等名 The British Association for Slavonic and East European Studies (BASEES). (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kieko Kamitake
2. 発表標題 Russian Premiere of 'Elektra' at the Mariinsky Theatre in 1913: the Common Viewpoints of Hugo von Hofmannsthal and Vsevolod Meyerhold about 'Modernization of Greek Tragedy' .
3. 学会等名 The 21st Quinquennial Congress of the International Musicological Society. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kieko Kamitake
2. 発表標題 "Gluck's 'Orfeo ed Euridice': Acceptance of Melodramatic Operas in the End of the 19th Century in Russia"
3. 学会等名 Special session on 19th-century Russian Melodrama with views from Japan, c 19c, the Cross Cultural Circa Nineteenth Century Research Centre, The University of St Andrews. (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kieko Kamitake
2. 発表標題 "Geinoh Yamashirogumi's 'Akira': Bulgarian Voices in Japanese Music"
3. 学会等名 XIII International Symposium: "Musical Creation in the Soundtrack", The Music and Audiovisual Languages Commission of the Spanish Society of Musicology, The University of Oviedo. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kieko Kamitake
2. 発表標題 "Gluck's 'Orfeo ed Euridice': Acceptance of Melodramatic Operas in the End of the 19th Century in Russia"
3. 学会等名 ICCEES (the International Council for Central and East European Studies) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神竹喜重子
2. 発表標題 ホヴァーンシチナの普及：キエフから主要都市へ
3. 学会等名 日本ロシア文学会第70回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kieko Kamitake
2. 発表標題 The Opera Performances at Private Opera Theaters in Russia from the End of the Nineteenth Century to the Early Twentieth Century: Movement of Singers and Opera Works
3. 学会等名 The British Association for Slavonic and East European Studies (BASEES) 2019 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kieko Kamitake
2. 発表標題 The Influence of the Moscow Private Opera on the Imperial Theaters: Potential Relationships between Mamontov's Private Opera and Russian Provincial Opera Theaters for the Spread of Mussorgsky's and Rimsky-Korsakov's Opera
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神竹喜重子
2. 発表標題 帝室劇場と私立歌劇場の関係性 リムスキー＝コルサコフとムソルグスキーのオペラ上演を巡って
3. 学会等名 日本音楽学会第70回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神竹喜重子
2. 発表標題 私立マーモントフ劇場における演出改革と人的移動
3. 学会等名 早稲田大学オペラ / 音楽劇研究所2019年度12月研究例会 (第185回オペラ研究会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 アレクサンドル・ピーギン、フロレンチーナ・パンチェンコ、神竹喜重子、他6名	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 386
3. 書名 ロシア正教古儀式派と国家 権力への対抗と共生	

1. 著者名 佐藤英、萩原里香、大河内文恵、神竹喜重子、他10名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 379
3. 書名 オペラ/音楽劇研究の現在 創造と伝播のダイナミズム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関